

愛知県臨床検査技師会活動における新規班員勧誘の取り組みと成果

◎西尾 美津留¹⁾、河内 誠¹⁾、杉浦 康行¹⁾、犬塚 齊¹⁾、神野 洋彰¹⁾、内田 一豊¹⁾、藤田 孝¹⁾
愛知県臨床検査技師会¹⁾

【緒言】愛知県臨床検査技師会学術部研究班は、専門的知識・技能の普及や人材の育成を目的に講習会、研究会等の事業を開催する組織である。研究班は、班員各部門20名程度で構成されているが、近年定員割れが発生していた。要因としては、若手の職業意識の変化やコロナパンデミックの影響が考えられ、技師会活動参画に積極的意思を持つ臨床検査技師の減少は喫緊の課題であった。新規班員の獲得に向け、活動様式をWEB配信から可能な範囲で現地開催へ切り替え、班員勧誘の班紹介動画や独創的なチラシ作成ならびに技師会ホームページへの掲載など、技師会全体で取り組みを行った結果、2024年度の班員募集に対し、実に72名の応募が集まる歴史的快挙を遂げた。その背景を探るべく、新規班員にアンケート調査を実施した。

【アンケート調査方法】Google Form を利用し、8項目（①年齢、②技師経験年数、③応募分野の経験年数、④取得資格、⑤応募動機、⑥懸念事項、⑦活動で得たいこと、⑧継続予定年数）について聴取した。

【アンケート結果・考察】回答は53名より寄せられた。①25～34歳が77%であり世代交代が見込める結果だった。②10年未満が66%であり、③3～5年が圧倒的多数だった。④応募分野の二級臨床検査士の取得が最多だった。⑤「班員からの直接勧誘」が最多であり、現地開催事業での交流が大きな影響を及ぼしていると考えられた。「自分の意志」という動機も多いため、勧誘の取り組みにより「挑戦したい思い」が湧き、直接勧誘が最終的な後押しになったと思われた。⑥自身の専門的知識・技術の不足を懸念する声が多く、⑦の最多回答でもあった。

【結語】今回の成果により、懸念に反して学術活動に参加の意思を持つ有能な人材の豊富さが明らかとなった。各種勉強会がWEB配信主流の流れであるが、次世代を発掘・育成していくためには、直接勧誘という従来法が有効であり、現地開催や交流の必要性について再認識した。臨床検査の発展を未来へ繋げるためにも、適切な機会を提供し、巧みに人材発掘を行う技師会活動の展開が不可欠である。 連絡先：0568-76-4131（内線3110）